

教育研究所だより

平成22年3月25日 NO. 169

守山市教育研究所発行

守山市勝部三丁目9-1 (守山市生涯学習・教育支援センター 愛称: エルセンター3・4階)

TEL 583-4217 FAX 583-4237

E-mail kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp

所長 寺 町 卓

平成21年度 教育研究発表大会 教育講演会

「小学校英語教育について」

京都外国語大学特任教授 齋藤栄二氏



去る2月26日に守山市民ホール小ホールで開催しました教育研究発表大会において、京都外国語大学特任教授であり、小学校英語教育学会会長でいらっしゃる齋藤栄二先生からご講演を頂きました。そのお話の概要をここに掲載いたします。

教育にかかる国の予算の危機

以前私が校長を勤めていた京都教育大附属小学校では、昨年4月から文部科学省の指定により、3年間英語活動の実践を行い、その研究をまとめるという委託を受けました。私も助言者として関わりました。委託された指定の内容は、①教科型でやる。②小学1年生から9年間にわたるカリキュラムの構築をする。③文字については留意しないと言ったものでした。この文部科学省の指定内容を見たとき私は、文部科学省がこの研究の成果をまとめて将来的には小学校の英語を教科型にしようと考えているような印象を受けたものです。ところが、突如、昨年11月にこの指定研究が中止になったのです。それがあの「事業仕分け」です。私たちは小学校英語学会から英語教育予算についての要望書を出すなど、政府に対して働きかけを行いました。

戦後の日本を、あの激しい荒廃した街からここまで復興させたのは、教育の結果です。ところが、1975年にはGDPに占める教育費の割合が12.4%だったのが、どんどん右肩下がりで、今年は5%にまで落ち込みました。特に外国語学習に関する教育水準はアジア諸国に比べて劣っています。日本の国力が教育力の落ち込みと共に衰退することが憂慮されてなりません。

人工語としての英語教育からの脱却

文型中心の英語教育では、英語が話せるようになど絶対になりません。文型・文法を学ぶために人工的に造られた英語は、矛盾に満ちています。大切なことは、生活の中で自然な英語に触れながら、言葉を覚えていくことです。小学校ではパターンイングリッシュを教えないようにしようではありませんか。

自己表現力の育成は教育において大変重要です。それは語学を学ぶときも同じです。自分の考えを自分の言葉で表現することを、パターン学習で妨害してはなりません。その意味で、児童生徒の声を聞くことが授業向上に有効で、児童生徒から学ぶことで授業をよりよく組み立てることができます。

素晴らしい絵本の読み聞かせ

優しい絵本の中には人間の喜びや悲しみが一杯です。絵本の読み聞かせで幼児が言葉を学ぶように、英語の絵本を読み聞かせすることで、自然に心の通った言語が体得できます。もちろん、小学校低学年と高学年とは違った種類の絵本になりますが、いずれにしても心に迫る教育が大事です。小さい時に何度も何度も読み聞かされた優しいお話は、歳を取っても忘れませんから。

平成21年度の「教育研究所だより」では、『英語活動について』各分野の方々からご意見を賜っています。

研修講座を振り返って

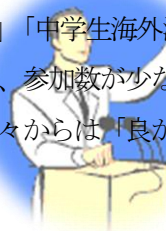


教育相談研修講座 「特別支援教育」「不登校」「カウンセリング」などの講座を開き、多くの方にご参加いただきました。しかし、理論が中心になり具体的な対策や手段を学び習得する講座が一つしかありませんでした。次年度への課題とし、改善に努めていきたいと思えます。

授業改善研修講座 指導力向上に関わっての講座を開いたことで、各校からたくさんの先生方の参加があり、大きな成果を上げることができました。

郷土守山に学ぶ研修講座 自然科学・歴史・産業と、多岐にわたる分野の講座を開き、多くの市民に参加して頂きました。特に歴史に関わる講座は人気が高く、募集後すぐに定員に達し、応募されたたくさんの方々にお断りしなければならず、申し訳ないことを致しました。次年度も多くの方々に参加して頂ける、魅力ある講座を企画したいです。

教育研究発表大会 「小学校英語活動に関する研究」「指導力向上に関する研究」「中学生海外派遣団研修報告」「教育講演会『小学校英語活動について』」と、内容のほとんどが英語教育だったため、参加数が少なめでした。しかしながら、聞きごたえのある分かりやすく楽しい講演会・研究発表など、参加されたの方々からは「良かった」との声を数多く頂きました。



くすのき教室から

「新たな一歩！」今年度の途中から学校への登校がしんどくなり、くすのき教室へ通いだした児童生徒が6名います。それぞれ学校復帰に向けて努力してきました。3学期になり、学年や学校の行事に参加したり、別室での登校に意欲を見せだしたりと、学校復帰への兆しが見えてきた児童生徒がほとんどです。季節の変わり目、学校・学年の卒業・進学・進級の節目などが、くすのき教室等で蓄えてきたエネルギーに点火剤のようにはたらき、それぞれが今新たな一歩を踏み出そうとしているように感じられます。新たな一歩が力強く踏み出せるよう応援していきたいと思えます。

教育相談室から



3学期の新しい取り組みとして、当研究所からの遠隔地の児童生徒、保護者を対象に北公民館の一室をお借りして「出張教育相談」を実施しました。相談件数はあまり多くありませんでしたが、利用しやすい相談のあり方を今後も工夫していきたいと思えます。

学校へ行きづらい、休むことが多くなってきたなど、子どもさんの不登校のことはもちろん、子育て等で悩まれた時は、お気軽にご相談ください。

TEL 583-4237

教育研究所の蔵書紹介



教育研究所では教育に関する本を中心に、皆さまにご覧頂ける書物・CD等を多数所蔵しております。蔵書紹介3回目の今回は、ある意味共通点を持つ2冊の「子どもとの関わり方」を記した本をご紹介します。

やさしいブリーフセラピー＝読めば面接が楽しくなる＝ (森俊夫著、ほんの森出版) ブリーフセラピーとは「短期療法」と訳されるが、本質はいかに効果的・効率的に楽に面接を行うかを指し示してくれる方法である。クライアントが持つ問題点について考察するのではなく、クライアントが明るい未来を描き目標とすることで効果を上げる。

先生のためのアドラー心理学 (赤坂真二著、ほんの森出版) アドラー心理学では「なぜ？」という原因ではなく、「何のために？」という目的に着眼して子どもの心理を考え、問題を解決し子どもを支援していく。そしてアドラー心理学の目指すものは「共同体感覚」の育成である。集団との良好な関わりを目指し、やる気を勇気を育てる学級づくりの一助となるであろう。